

**1 活動名 会派「開明」行政視察 (出雲市) (担当：上條)**

松くい虫防除対策について  
出雲空港活性化について

**2 調査の目的****(1) 本市における課題**

本市の松くい虫被害は拡大の一途であり、決定的な防除対策が見当たらない現状である。また松本空港は本市の高速交通網の切り札であり、その活性化は本市の大きな課題である。

**(2) 調査の必要性**

本市に先んじて松くい虫被害に遭遇した出雲市の対応を学ぶことは有効である。特に健康被害が発生し空中散布を取りやめた結果に関心があった。

又、出雲縁結び空港は、地方空港として松本空港と同様の位置づけであって、その活性化は本空港の参考になる。

**(3) 調査項目**

- ア 松くい虫防除対策について
- イ 出雲空港の活性化について

**3 調査地選定理由**

- (1) 出雲市 「神話の国出雲」として全国に知られている。人口 175,390 人で島根県では松江市に次いで第 2 の都市として本市と環境が似ている。県内に萩・岩見空港、隣接する鳥取県米子市に米子空港があり、出雲空港の活性化が大きな課題となっている。

**4 調査結果**

- (1) 実施日 平成 30 年 8 月 6 日 (月)

- (2) 出席者 6 名 青木崇、川久保文良、井口司朗、上條温、  
芝山稔、青木豊子

- (3) 松くい虫防除対策について (説明＝出雲市森林政策課泉課長他)

**ア 経過**

昭和 57～平成 19 薬剤空中散布実施 (1,950ha)

平成 20 年 5 月 26 日 健康被害発生 被害訴人数 1,077 人、受診者数 213 人  
(大人 20 人、児童生徒 1,057 人)

平成 20 年 6 月 健康被害原因調査委員会設置、委員会 8 回開催  
(委員：島根大学副学長他 10 名)

平成 20 年 9 月 委員会報告書

多数意見 農薬空中散布の可能性は否定できない。

少数意見 原因を特定できない。

平成 20 年 12 月 松くい虫防除対策基本方針の策定

・空中散布以外の方法で松林の保全を図る。

・樹幹注入、伐倒駆除、樹種変更植栽等を行う。

イ 質疑

Q 空中防除中止後、出雲市の松林の現状はどのようになっているか？

A 山林の松はほぼ全滅した。全滅後 5～6 年経過して今のところ大丈夫だが、今後土砂災害が心配。

Q 空中散布を止めた結果被害はどうなった？

A やめた結果、被害は 10 倍くらい爆発的に拡大した。

Q 近年落ち着いてきた理由は何か？

A 被害木そのものがなくなった。

Q 防除対策経費はどの程度支出したか？

A 防除対策費が最もかかった 3 年間では、

H23 樹幹注入費 8,400 万円

H24 " 6,100 万円、その他を含めて総額 2.8 億円

H25 " 3,300 万円、 " 1.1 億円

Q 空中散布反対者の主張は何だったか？

A 健康被害一点張りで代替案はなかった。全国ネットで市民以外の人もいて、マスコミに強く訴えた。

Q 出雲市が空中散布を中止した結果、県や周辺自治体への影響は？

A 松江市、隠岐の島町も中止した。

隠岐の島町のみ翌年再開した結果、松枯れは増えていないので効果はあったのだろう。

21 年当時、山が真茶色になった時は、空中散布反対論も下火になった。

(4) 出雲空港の活性化について (説明＝交通政策課林課長他)

ア 現在の運航体系 (8 路線山陰の中核空港)

JAL	羽田便	1 日 5 往復	ボーイング 767 機	261 席 (2 往復)
			ボーイング 731 機	165 席 (3 往復)
"	伊丹便	1 日 4 往復	エンブライエル 170 機	76 席
"	福岡便	1 日 2 往復	SAAB340 機	36 席
"	隠岐便	1 日 1 往復	"	36 席
"	新千歳	週 4 日 1 往復	ボーイング 731 機	165 席 (8 月限定)

FDA	小牧便	1 日 2 往復	エンブライエル 170 機	76/84 席
-----	-----	----------	---------------	---------

"	静岡便	1 日 1 往復	エンブライエル 170 機	76/84 席
---	-----	----------	---------------	---------

"	仙台便	1 日 1 往復	エンブライエル 170 機	76/84 席
---	-----	----------	---------------	---------

イ 利用者数の推移

H25 834,378 人

H26 784,679 人

H27 829,111 人

H28 891,889 人

H29 919,547 人 (年間利用 90 万人達成)

H30 年間 100 万人目標

ウ 利用促進事業

利用促進協議会の設立 (平成 7 年設立 会長：出雲市長)

構成団体は、島根県東部の自治体、議会、観光協会、旅館・ホテル協会、JA、商工団体、民間企業など 87 団体

エ 協議会予算

H27	46,743 千円	財源の概ね半額が島根県負担、残りは地元市町の負担
H28	35,929 千円	
H29	36,176 千円	
H30	30,173 千円	

オ 協議会の主な活動内容

(ア) 空港おもてなし事業 (474 千円)

空港におけるイベント支援、強力

(イ) 空港 PR 事業 (2,393 千円)

松江市内へ横断幕、東京都内へ電照看板設置  
情報誌、チラシ作成

(ウ) 既存路線閑散期 (12 月から 2 月) 対策事業 (7,654 千円)

団体ツアーの造成 (往復利用の場合 1 席当たり 1,500 円助成)  
冬季キャンペーンや旅行商品広告掲載

(エ) 新規路線 (伊丹 : H27.3 就航) (8,471 千円)

名古屋における各種イベントに参加、PR  
団体ツアーの造成 (1 席当たり 1,500 円助成)

(オ) 静岡・仙台線新規運行 PR 事業 (6,964 千円)

PR ポスター作製、CATV、FM・AM ラジオで CM を放送

(5) 成果・所感等

出雲市では古代から出雲大社の防風林として黒松を植林してきた。斐伊川の上流でたたら製鉄用の燃料とするために木材を伐採してきた。昭和 57 年から 26 年間薬剤の空中防除を実施 (1,950ha) してきたが、平成 20 年健康被害が報告され空中防除は中止した。その結果、山林の松はほぼ全滅したとのことで、今後は土砂災害が心配だとのことであった。適切な対応を図らなければ松本市もそうなりかねないと感じた。健康と松くい虫防除、折り合いはつけられないものだろうか、頭の痛い問題だ。

出雲空港の運行状況は 1 日当たり 8 路線 24 便と、松本空港の 2 路線 4 便とは大きくかけ離れていた。東京から適度に遠い立地を生かして、山陰の中核空港としての地位を確立している。一方、住宅に近いので住民とのコンセンサスが難しいとのことであった。

松本空港についても、さらに積極的な利用促進策を講ずる必要があると痛切に感じた。同時に空港周辺の環境改善、空港施設、設備の整備も合わせて必要だと感じた。